

島根大学研究見本市

研究テーマ名  
 複数の名称が与えられる状況でのことばの獲得過程  
 (英訳) How do toddlers map multiple labels to an object

研究者紹介

村瀬俊樹・教授  
 MURASE, Toshiki  
 Faculty of Human Sciences  
 Professor

概要

日本では、ことばを話し始めの子どもに対して、犬のことを「ワンワン」と言うなど、育児語を使って話しかけることが多くみられます。一方、「イヌ」のように、成人に対して通常用いることば（成人語）を使って話しかけもします。つまり、日本の子どもは、1つの対象に複数の名称が与えられる状況（犬を「イヌ」とも、「ワンワン」とも言う）の中で、ことばを獲得していることとなります。子どもたちが、これらの複数の名称をどのようにとらえてことばを獲得するのかを研究しています。

Japanese parents frequently provide multiple labels to an object, using infant-directed speech words and adult-directed speech words (ex. “wanwan” and “inu” for a dog), as opposed to American parents. We investigate how Japanese toddlers acquire words when multiple labels are applied to an object.

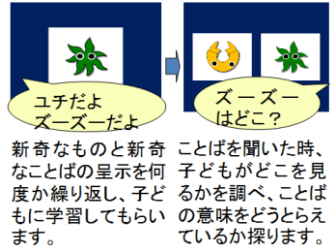
特色  
 研究成果  
 今後の展望

日本の養育者は、育児語も成人語も使っていますが、育児語はものの名称として使われる（「これ、ワンワンだね」など）だけでなく、鳴きまねなどとしても使われる（「いぬだよ、ワンワンって」）ことが多いことがわかりました。また、育児語と成人語を聞いた子どもが、それぞれのことばをどのように獲得しているかも明らかになってきました。

養育者の一般的な特徴



ことばの獲得研究の方法（乳児対象）



今後は、1) 養育者が育児語を使ったり使わなかったりするのとはどのような考えによるのか、2) 育児語と成人語の意味の区別を子どもはどのようにしているのか、3) 他言語を獲得している子どもたちはどの程度複数の名称を経験しているのかということをも明らかにしていきたいと思っています。

キーワード

ことばの獲得, 発達, 乳幼児, 育児語, 会話, 養育者のことばかけ, 認知能力, 日本語

リンク

<http://www.ipc.shimane-u.ac.jp/psy/murase/index.html>